
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 329 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2012.03.16（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1155 部*****

□ 目 次 □-----

<今週の提言> 震災から 1 年 本当に支援が必要なのはこれから 渡邊博

<イベント案内>福島視察・全国集会

農から復興の光が見える！～有機農業が作る持続可能な社会へ～

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.126』発行されました

<編集後記> 3.11 後のたしかな視座

—内山節『内山節のローカリズム原論—新しい共同体をデザインする』

<今週の提言> 震災から 1 年 本当に支援が必要なのはこれから

3.11 から 1 年、被災地の現状はいまだに苛酷である。2 週間ほど前、被災地の NPO 団体が主催する震災報告会に参加したついでに 3 カ月振りに被災地を回って歩いた。三陸の町々は何も変わっていない。行き場のない瓦礫が山積みになったままである。仮設住宅の集会所ではボランティアの若者達とお年寄りや子供達の笑い声で溢れていた。仮設住宅のリーダは、ボランティアや訪問してくれる人が居て本当にありがたいと言っていた。「でもね、夜になると泣いているんですが」。

80 人以上の児童や教職員が亡くなった石巻市大川小学校では、休日であったこともあり、多くの人がお参りに来ていた。子供を失った親たちが学校や教育委員会を訴えているが、「親御さんの気持ちはよくわかる。誰かを責めずにはいられないんだ。でも教師たちを責める気持にはならないんだよね。あんな状況では誰も正常な判断なんかできないしね」と、地元の長老がさびしげに語ってくれた。

大川小学校のそばの北上川河口の 100ha を超える、いや 200ha はあるかもしれ

ない水田が地盤沈下で海の底に消えた。そこが農地であったなどとは、事情が知らない人にはわからないだろう。満潮時には家屋も水没する。県は2年以内に復旧すると言っているらしいが、そこで農業をやりたいと言っている人はだれもいないという。

放射能の影響がある福島はさらに深刻である。どこに相談しても、まず除染してからとしか言わず、農業の具体的復興については何も語ってくれないという。福島の農業は壊滅寸前である。先が見えず、補償金や義捐金を酒やギャンブルにつぎ込んでしまう農家の人も少なくないらしい。「人も金も福島を通り越して仙台に行っちゃもうんだ。だれでもいいから福島に来てくんねがな」。切実な訴えだ。

被災地である実家に最初に帰ったのは震災後1カ月過ぎてからだったが、震災直後は電気、ガス、水道全てが止まり、情報も遮断されて、被災地では被害の状況がよく把握できていなかったらしい。地震直後は街の明かりもすべて消えた。「あんなにきれいな満天の星空を見たのは初めて。でも、二度とあんな経験はしたくないな」。姪が笑いながら、ちょっぴり悲しげに語った。これからは本当の支援のしどころだと肝に銘じよう。

渡邊 博

山崎農業研究所幹事

yamazaki@yamazaki-i.org

<イベント案内>福島視察・全国集会

農から復興の光が見える！～有機農業が作る持続可能な社会へ～

2012年3月24日(土)～25日(日) 福島・郡山

主催＝福島県有機農業ネットワーク ふくしま集会実行委員会

■開催の趣旨

福島第一原発事故により、福島県は今人類まれにみる苦悩を味わっています。特に、土に生きる有機農業者の苦しさははかりしれません。しかしながら、福島のこの現状は、報道のみでは伝わりにくいものがあります。

福島県有機農業者の一番の望みは、まず、日本中の方々に福島の現状を見ていただき、正確に知っていただくことです。その上で、この福島の地で将来に

向かって、いかに「福島に寄り添い」「福島とつながりながら」今後の復興を共に進めていけるか、そんな出発の機会と場が必要と考えました。

■農から復興の光が見える！ふくしま集会のよびかけ

(福島県有機農業ネットワーク代表 菅野正寿)

2011・3・11 東日本大震災、原発事故は膨大な放射性物質の放出により、ふくしまの山林、農地、海洋が次々に汚染され、わたしたちのくらしと環境が著しく脅かされました。とりわけ自然の循環と生態系を守り、健康な作物、健康な家畜を育ててきた有機農業への打撃は深刻です。

津波で家も農地も流された苦しみ、未だ避難を余儀なくされている苦渋、放射能に脅かされている子どもたち、そして自ら命を絶った農民...

わたしたちはこの苦しみと向き合い、耕して種をまき、農の営みを続けてきました。その農民的技術の結果、放射性物質の農産物への移行は予想以上に低く抑えることができました。「これなら孫にも食べさせられる」と笑顔の農民。

原子力という暴走した科学に対峙する道は、自然との共生を大切にする地域資源循環型有機農業による食と農の再生の道ではないかと考えます。この有機農業による持続可能な新しい社会を都市と農村、消費者と生産者が共に手を携えて創っていかうではありませんか。

「雪のなかに残された悲しそうな赤い柿の木」里山と田や畑の現場を見て頂き、ふくしまの農家の皆さんと語り合い、このふくしま集会を新しい時代の出発点とするためにみなさんの参加を心からよびかけます。

■開催概要

1 日目 シンポジウム(交流会) メイン会場：ホテル華の湯(郡山市温海町)

◎福島県の放射能汚染の実態

◎風評被害の現状と今後の行動、福島と「つながる」ために

2 日目 現地視察

◎1 コース 避難区域における農業の現状視察

(飯舘村～南相馬市)

◎2 コース 放射能と戦う農業者視察(除染・放射能を下げる)

(福島市～二本松市)

※詳細：http://www.yuki-hirogaru.net/news_list/10916.html

■お問い合わせ

福島県有機農業ネットワーク事務局

〒964-0991

福島県二本松市中町 376-1

Tel. 0243-24-1795 / Fax. 0243-24-1796

E-mail: yuuki@farm-n.jp

<http://www.farm-n.jp/yuuki/>

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.126』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.126』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000 円）いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

目次（抜粋）

《土と太陽と》（巻頭言）

アグロノミストとして、太陽エネルギーの利用を考える◎塩谷哲夫

[第 138 回定例（現地）研究会]

小川光氏 山崎記念農業賞を祝う会

研究会—ものづくり・ひとづくり・むらづくり をめぐって

参加者の声 成尾和浩／永井智一／若松美香／益永八尋

[第 139 回定例研究会] 循環型社会と農業—とくに畜産との関係から

I 安全・安心こそいのち—牛飼雑記◎峯村富治

II 有機性資源の循環利用による土の健康

—総合的養分管理の重要性◎松村昭治

[第 140 回定例研究会] 蘇れ、山と森と林

I 荒れ山を逆手にとれ！ 木のある暮らしの実践と楽しみ方◎大内正伸

II 荒れる人工林：森林管理から木材利用まで林業再構築をめざして◎鋸谷 茂

〈連載〉畦道・赤トンボのナショナルリズム [17]

科学とナショナルリズム／宇根 豊

<編集後記> 3.11 後のたしかな視座

本書は、3.11 から 1 ヶ月後にスタートした立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科での講義「コミュニティデザイン学演習—ローカリズム原論」の講義録である。

「当然ながら授業はそのこと [=東日本大震災] を念頭においてすすめられた。地域とは何か、コミュニティ、共同体とは何か、これからの社会のかたちをどこに求めるべきなのか、そしてその背景にどんな哲学、思想をつくりだす必要があるのか。それは震災後の復興を考えていく作業でもあり、同時に、いきづまった現代社会をいかに変えていったらよいのかについての考察でもあった」

本書で内山さんは、コミュニティは人間にとって機能でなく本質である、と繰り返し述べている。

「私は人間の本質を関係としてとらえています。そしてそうだとするなら、関係をつくり、コミュニティを生みだしながら自分たちの存在の場所を形成していくことは、たんなる手段ではなく、人間の本質に属することのはずなのです」

そうした認識にたったとき、復興とは何か、道路や鉄道が、町や学校や職場が元通りになることの基層になくしてはならないものが何かが見えてくる。

「今回の災害後の復興でも、復興とは何を意味するかというと、たぶん、被災された人たちが、亡くなるときにここで暮らしてよかったと思って亡くなる、自分たちががんばってよかったなあと思いながら死ぬことができる、それができたら復興ができたといってもいいのではないかと、という気がします。(中略) 自然との関係、人間との関係において、その『よかったなあ』とを感じる世界は成り立っている。この世界は国には絶対つくれぬ。そう思って皆が死ぬような世界というのは、その地域の人たちが、ローカル世界のなかにつくれないのです」

自然や人間とのさまざまな関係は震災によって断ち切られたわけではない。過去に蓄積された自然や人間との関係の網をたぐり寄せながら、その網を再生するなか、そうすることを通じて自分自身の生を確かめることなか、復興の意味があるとする本書は、3.11 後のたしかな視座になるのではないかと。

内山節著『内山節のローカリズム原論—新しい共同体をデザインする』
農山漁村文化協会刊、A5判、並製、184ページ、本体価格1800円＋税
ISBN 978-4540121210

2012年2月発売

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_54012121/

2012年03月15日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）

グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryu.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半 X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半 X という生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 330 号の締め切りは 03 月 26 日、発行は 03 月 29 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 329 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2012.03.16（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****